

査センター設置はとても良い取り組みだと思います。私も大分に到着したとき抗原検査センターを実際に利用しました。やはり、検査を受けて自分が陰性だと確認できるのは、自分にとっても、周囲との関係においても安心できますね。

また、ワクチンは重症化率を下げる、感染を予防するという効果がありますので、できるだけワクチンを受けていただきたいと思います。市は80%ほどの接種率ということで、かなりの高接種率だと思います。

——生活に合わせた支援策について教えてください。

市長 緊急かつ一時的な生活維持のための資金の貸付等の継続実施や子育て世帯への特別給付を行いました。また、自粛要請等によって影響を受けた事業者に対する家賃補助や上下水道料金の免除等支援措置を講じたほか、小中学校等ではトイレの手洗い場の自動水栓化も行いました。

——市議会としての取り組みについてはいかがですか。

議長 感染症対策や大規模災害に対応するため、地方一般財源総額の確保を図ること、また、4年度地方税制改正に向けて地方税財源の充実を図ることを国へ要望しました。また、県最低賃金のあるべき姿への引き上げとコロナ禍における中小企業・小規模事業者支援のさらなる拡充を行うよう国会および政府に要望しました。

また、災害や感染症の流行等により議会が開けず予算案の審議ができない状況が発生すると市

ンターなどを利用して検査してください。特に市の場合JR大分駅前抗原検査センターもありますから早く診断を受けることができます。そう心掛けることで、安心した社会生活が再び私たちの前に現れてくるのだらうと思っています。

市長 抗原検査センターは3月31日(木)まで運用予定です。ぜひ活用ください。

議長 ウイズコロナということで、経済活性化にも期待をしたいですね。市がリーダーシップをとってコロナ対策と経済活性化を両立するモデルを示すことで民間企業や各種団体にも積極的な取り組みが進んでくると思います。

市議会としては、市民の皆さんのご意見を聞きながら議会の中で議論することが一番大事だと考えています。私たちは毎年、市民との意見交換会を実施していますが昨年は実施できませんでした。今年はぜひ開催し、いろいろなご意見を聞かせていただきしっかりと実行に移し、対話と行動を大切にやり組んでいきたいと思っています。

——賀来先生は感染症の専門医でいらっしゃいます。感染症に対して、正しい情報を伝えるべくこの重要性についてはどのようにお考えですか。

賀来 新型コロナウイルス感染症で陽性だった人が差別を受けたり、あるいは患者さんを診ている医療従事者、その家族が差別を受けたりということが、現実起こっています。感染症は人から人へうつるもので誰もが感染する可能性があります。決して差別があつてはなりません。感染症にかかった人を差別や非難するのではなく、守れる社会をつ



フリーアナウンサー
財前 真由美



大分市議会議長
藤田 敬治



大分市長
佐藤 樹一郎



東北医科薬科大学特任教授
賀来 満夫

賀来 満夫 特任教授
・大分県出身
・東北医科薬科大学 医学部
感染症学教室 特任教授
・東北大学 医学部
名誉教授・客員教授
・東京都参与

民生活に大きな影響が生じます。議会として自然災害BCP(事業継続計画)は作成していましたが、それでは感染症に対応できないことがありますが、そこで、感染症BCPを作成するため新たにチームを立ち上げて準備をしているところです。

**感染防止と経済活性化を両立し
コロナと共存する**

——賀来先生、ウィズコロナの時代、私たちはどのようなことに気を付ければ良いのか教えてください。

賀来 ウイズコロナとは、コロナと共存するということですが、以前から言われていることですが、3密を避けて、特に人と会ったり話をしたりするときはマスクを着用し、小まめに手洗いをして、換気などウイルスを少なくするような工夫をする。一人ひとりが健康管理をしっかり行っていただき、症状として最も多い発熱、頭痛がする、全身倦怠感がある、せきが出る、喉が痛い、この5つの症状があるときは、すぐに医療機関を受診してください。症状がなくても感染の不安があるときは、抗原検査を

くるとの大切さを、皆さんにも考えていただきたいと思います。

議長 市でも、クラスターが起きた学校の生徒が誹謗中傷を受ける事案がありました。差別は絶対にあつてはならないことです。行政から正しい情報をお伝えして、市民の皆さんに理解していただくことに注力しなければならぬと感じています。

**市民の皆さんとともに
明るい未来を描く**

——本日のお話を踏まえて、佐藤市長から市民の皆さんへメッセージをお願いします。

市長 賀来先生が教えてくださった通り、基本的な感染対策を継続してしっかりと行うことで、光が見えてくると思っています。感染した人を差別するのではなく、みんながサポートしていくことが大切だという話もいただきました。

今年も市民の皆さんと一緒に、コロナに打ち勝つ社会をつくっていきたくと考えていますので、ぜひ、ご協力をお願いいたします。

——本日はありがとうございました。(了)

※掲載内容は、3年12月1日時点のものです。

3回目のワクチン接種券の発送については、10ページをご確認ください。